

ぶちか

議会だよ



contents

今号は 20 ページ

ホテル建設にNO! . . . 2 ~

水産物加工場は? . . . 16

高校生卒業レポート . . . 4 ~

議員のお仕事 . . . 18

教育長! & 町長! . . . 8 ~

世界遺産登録 おめでとう♪♪

(撮影: 今田光弘)

小値賀町議会は

ホテル建設にNO!

町長と福岡小値賀会に文書を渡す

100人規模のホテルを

平成28年の福岡小値賀会（注）で、小値賀にはホテルが必要だとの話が出て、小値賀出身者として具体的な行動を起こそうと、建設へ向けた活動が始まりました。

候補地などの視察を行い、全体的な構想をまとめ、昨年7月、有志代表が来島。町長や議員、町内の各種団体の代表者を集めて、ホテル建設に向けた概略の説明が行われました。

建設の内容はまだ具体的ではないものの、町と民間の出資による第3セクター※を事業主体とし、宿泊者100人規模のホテルということでした。

反対意見相次ぐ

これに対し参加者からは、町内の宿泊業者の厳しい現状や、世界遺産に伴う観光客の増加は一時

るな意見が出されました。



民間の宿泊施設ががんばっています

議会が動く

提示されたホテル建設の案が本町の財政支出を伴うことを前提にしていること。また、町内の観光関連事業者などの理解が得られていないこともあり、議会はこの提案に

対し、調査研究を行うことにしました。

昨年9月には、宿泊業者や観光関連事業者に対するヒアリングを実施。また、観光の専門家の意見を聴いたり、国内の世界遺産登録各地の観光客の増加の推移も調査しました。

さらに町が委託した宿泊動向調査の報告書も参考にして議論を積み重ね、議会としてのホテル建設に関する見解をまとめました。

町長に文書を提出

そして今年5月23日、正式な文書を町長に提出。同じものを福岡小値賀会の有志の方々にも提出しました。主な内容と結論は、左のページのとおりです。



何度も話し合いました

小値賀町議会の見解をまとめました

①小値賀町が目指す観光とは？

団体客ではなく、個人やグループを中心に、小値賀の人と触れ合い、町の良さを理解し、楽しんでくれる小値賀ファンを作り、リピーターを増やす。

②ホテルが今必要か？

中長期的にはホテルの必要性は必ずしも否定するものではない。小値賀町が目指す観光の形や、世界遺産登録による観光客の増加は一時的なものに過ぎないことから、今はホテルの必要はないし、建設を進めるべきではない。

③誰がお金を出すのか？

町がお金を出して建てる場合、民業圧迫や財政面からも反対する。民間が建てる場合でも、小値賀町が目指す観光の形に合うもので、宿泊事業者や地域住民に説明したうえで、理解を得る努力が必要だ。

結論

①小値賀町が建てる、または第3セクターでの建設には、小値賀町議会は反対する。

②今後、民間が建てる場合でも、小値賀のためざす観光に合うものでなければならぬとする。

(解説)

ホテル建設問題を考えるとき、前提条件によって、その判断が大きく異なってきます。

とりわけ、小値賀町全体としての観光事業の方向性が大事なポイントになると思います。

団体客を受け入れ、一気に観光客の増加を図るか、個人やグループなどを中心に小値賀ファンを地道に増やしていく道を選ぶか。

議会の中で何度も話し合った中から見えてきた方向性。それは・・・

小値賀の観光は人と人との触れ合いを中心とした観光。

「何も無い」をウリにした、観光客に媚びない観光。

ありのままでありながら、個性のある観光地。

また、建設資金が民間でまかなわれるか、町の



財政支出が前提であるかでも判断は違ってきます。民業圧迫の観点から、国や特殊法人による宿泊施設などの新増設を国は禁止し、地方自治体も準ずるよう求められています。

一方で、ホテル建設必

要論の中には、現在の町内の宿泊施設やサービスの、質の問題についての指摘があるのも事実です。

これらの課題をどのように解決し、小値賀の観光に結び付けていくか。議会ではこれからも調査研究を続けます。

岩下勇斗君・神川翼君・筒井友貴君・福崎礼一君

研究テーマは？

観光客の増加のために小値賀にある観光資源を生かす

研究の動機は？

小値賀では現在、観光に力を入れている。観光客が増えれば、農業や漁業にも相乗効果があると考えます。また、知名度が上がることにより、島民が地元を誇りを持つようになる。そこで、今以上に小値賀を盛り上げ、観光客を増やすためにはどうしたらいいか考えた。



小値賀の着地型の観光に、民泊は欠かせない。その良さを若い世代に伝えるとともに、民泊収入の確保が必要だ。町からの支援もほしい。訪日外国人が宿泊先を選ぶときに特に重視するのは、浴室とトイレ。部屋に風呂を設置すれば宿泊客の増加につながる。リゾートホテルの誘致も提案したい。



宿泊施設の多くが部屋に風呂がない。民泊も高齢化が進んでいる。

他の観光協会や旅行会社と連携する。特にJTBの「地域交流事業」に注目。連携することでより情報発信の拡大が期待でき、集客率も上がり、小値賀の知名度も上がる。



情報発信が不足している。

ストリートビューを導入することで小値賀がどういう場所かわかり、集客ツールにもなる。小値賀の風景を世界に示すことができる。インスタ映えする撮影ポイントを発見したらいいと思う。



素晴らしい風景があちこちに



観光する場所がわかりにくい。

発表を聴こう！

●よくまとまっていた。情報発信もいいが、きちんと受け入れをすることが大事だ。

●前向きな提言だ。小値賀の良さは足元にある。小値賀に住んでいる人が小値賀の生活を楽しむ。幸せを感じる。そこに観光客も寄ってくる。

●小値賀の個性的な魅力の情報をどう発信するか。表面的ではなく、地に足がついた観光資源の開発が必要だと思う。



在校生からの質問も

～高校生卒業レポート発表～



議場でドキドキ！

平成29年12月、北松西高校3年生が卒業レポートを発表。

在校生と先生、議員を前に、緊張した顔が並びました。

12名がテーマごとに3班に分かれ、小値賀の未来を真剣に考えました。

いただいた貴重な提言は、議会で大事に育てていきます。



緊張がとけて、ステキな笑顔になりました



話す方も真剣、聴く方も真剣

後輩へ。観光客にも元気な声であいさつを！

伊藤翔太君・坂井聖君・馬田有香さん・村中秋穂さん

研究テーマは？

小値賀の人口減少を抑制するためには

研究の動機は？

小値賀町の人口は年々減少している。昭和 25 年をピークに、現在はその 4 分の 1 程度。故郷小値賀を守るために、人口を増やし、活発な小値賀の姿を取り戻したい。進学・就職のために島を離れるのは、就職先が町内に少ないことが問題なのではないかと考えた。



職場ができて島が活性化するために、漁業、特に養殖の取り組みをしてはどうか。
施設運営費がかかるが、成功したら運営費を大きく上回る利益が出る。
天然ものに比べ、商品価値が低いが、製品に加工して販売する。



「小値賀牛」ブランドは夢？

小値賀の牛をブランド化してはどうか。
株式会社を作り、生産者の負担を減らすことで生産者の増加を図る。
ブランド牛育成のために、と殺場を造るなど多くの資金がかかるが、それ以上の利益が上がった例もある。
牛を飼っている人に契約社員として牛を育ててもらうことで、生産者の数をまかなう。

6次産業を行う会社を設立して、魚の養殖とブランド牛の取り組みをしてはどうか。
6次産業に取り組むためには、1次、2次、3次それぞれの段階の知識が必要。
それぞれの詳しい知識を持つ人を雇用すれば起業に時間がかからず、事業が成功する可能性が高くなる。
安定した職場ができれば就職者が増え、人口の増加につながる。
ブランド化、製品化が小値賀の活性化につながり、島全体の発展も見込める。

発表を聴こう
●小値賀では養殖は盛んでないのが現状だ。
●地理的に、販売に有利か不利かも考える必要がある。
●人口減少問題は小値賀町のメインテーマだ。議会でも皆さんの提言を活用させていただき、具体的な政策提言を目指していきたい。

崎村博一君・川口梨花さん・永田美咲さん・松永奈々さん

研究テーマは？

北松西高校の生徒数を増やすためには

研究の動機は？

北松西高校の生徒数は昭和 51 年をピークに、平成 13 年からは毎年定員割れが続いている。県の方針では、在籍者が 2 年連続で募集定員の半分に満たない場合、募集停止や統廃合が検討されることになる。廃校にならないよう生徒数を増やす。そのためには町外から人を呼び込む必要があると考えた。



廃校にならないように

看護や介護のコースを設置したらどうか。
高校のうちから実際に地域の職場で実習できるカリキュラムが組める。
卒業してすぐに地域の職場に就職でき、職場の人員確保につながる。
指導する人材を確保できないと十分な指導ができない。
新しい学科を作るのは難しい。



児童施設の子を民泊民家で受け入れたらどうか。
3年間の受け入れは負担になる。
高齢化や人材不足、設備の増強なども問題だ。
高校にも給食を導入したり、町内の店と連携して食事の提供をしたり、設備の増強に係る費用を町が援助するなど、町を挙げてのサポートがあれば、受け入れは可能と思われる。



孫留学※を受け入れてはどうか。
孫と暮らすことで高齢者も安心でき、地域の人も馴染みやすい。
身内であることから安心感があり、精神的な負担が少ない。
このようなシステムを町内外の人に知ってもらうことが重要で、町が積極的に情報を発信することが必要だと思ふ。

発表を聴こう
※孫留学
町外から転入し、小値賀の祖父母の家から小値賀の学校に通学すること。
●このようなことに問題意識を持っていただいたことに敬意を表したい。よく研究されていて頼もしく感じた。
●せっかく小中高一貫教育なのだから、いきなり高校生ではなく、小中学生を増やすことも考えては。
●皆さんの意見を参考に、北松西高校がなくならないように議会も調査研究をすすめていきたい。

魚の養殖と牛のブランド化の取り組みを！

生徒数を増やす取り組みを町全体で！

一般質問

町長&教育長!

離島留学制度の推進を

町民の皆さんとの連携が不可欠だ
できるだけ支援していきたい

小値賀独自の取り組みを



31人が傍聴に訪れました
平成30年定例7月会議

離島留学制度の意義は

問 横山弘藏議員

児童・生徒数が減少するなか、将来を見越して取り組んでいる離島留学制度は、教育環境を整える意味でも有効な方策だと思いが。

答 西浩三町長

人口減少に伴う学校の統廃合問題は、地域コミュニティの衰退にもつながる大きな問題だと認識しています。自然豊かな小値賀の小

中学校に島外の子どもを受け入れ、児童生徒の数を確保して学校を存続させ、地域活性化につなげるねらいがあります。

小中学生がそのまま北松西高校に進学するという理想的な流れになつてくると思われ、とても意義があることだと考えています。

答 吉元勝信教育長

少子化の中で、教育環境を整えるためにも大いに期待される制度です。児童・生徒が増えることで、いろいろな考え方が増え、競争力やコミュニケーション力の向上、部活動の広がりにもつながる制度だと思えます。



先生の情熱も感じます

問 横山議員

すでに実施している他の地域もあるが、小値賀独自の取り組みは。

答 吉元教育長

海を中心とした自然環境や、小さなコミュニティを生かした方向性がないと考えています。また、小中高一貫教育の特色を生かし、長期的な視野に立った英語教育などの取り組みも可能だと思えます。

町民の協力が不可欠

問 横山議員

この制度の難しい点は。

答 西町長

特に子どもだけの留学の場合、受け入れ態勢をしっかりと整えることが必要だと考えています。

答 吉元教育長

どの地域でもそのようですが、子どもを預かるシステムを作ることが難しいと思います。

また、核になるコーディネーターを確保することも課題だと思えます。

問 横山議員

町民の協力態勢が重要で必要だと思うが、その対策は。

答 西町長

地域の皆さんの理解が必須と考えています。人のつながりが小値賀



横山弘藏議員

町長!

横山議員

医師2名体制の確保を

西町長

他の医療機関との連携を図っていく

問 横山弘藏議員

診療所の建替え計画は前に進んでいるが、医療体制の充実の面では遅れているのではないかと。町民の健康管理を確かなものにするため、また、田中診療所長の負担を減らすためにも、医師2名体制の早期確保を。



答 西浩三町長

医師の確保に向けていろいろ努力していますが、県内どこも医師不足で、難しいのが現状です。代診や、応援の医師を運ぶデリバリーヘリの導入などにより、田中診療所長の負担を少なくするようになっています。

問 横山議員

今後の対応は。

答 西町長

県内の関係機関への働きかけを続けます。また、多くの医療機関との連携を密にし、診療に支障が出ないよう努めていきます。

～質問を終えて～

小中学校の離島留学制度により、定数割れが続く高校への進学率を少しでも上げることが期待される。町の活力は子どもたちの元気な姿があつてのこと。町全体で協力態勢を作りたいものです。町民の健康管理に万全を期するためにも、医師の2名体制は必要です。余裕のある医療が求められています。

一般質問

松屋議員

官民が協働で観光資源の活用を

西町長

官と民の連携をより一層進めていく

地域づくりの強化を

問 松屋治郎議員

小値賀町は、「西海国立公園」、「重要な文化的景観」、そして今回の「野崎島の集落跡」が世界遺産に登録され、長崎県でも最も小さな町が世界の注目を集めている。

今は官と民が協働でこの観光資源を活用し、地域づくりを強化する絶好の機会だ。

人的資源の乏しい中で、町民と対話し、知恵を出し合う体制づくりが重要だと思うが、観光による地域づくりにおいて、官と民の役割をどのように考えているか。

答 西浩三町長

官は、基本的には公共施設の整備、民間活動に必要な資金調達への協力、助成金の交付、組織間の連携の橋渡し、ボランティアやNPO組織活動の環境整備などを行う

ものと考えます。それらを活用し、地域の課題解決や地域資源の活用に取り組むことが民の役割だと思います。官と民が協力して地域の維持と発展を目指します。

問 松屋議員

観光関連事業者への協力支援、補助制度の拡充についての考えは。五島市では、宿泊満足度を上げるための宿泊施設への支援も検討しているようだ。



地域の維持と発展を

答 西町長

体験型民宿の推進や古民家ステイ、体験プログラムの開発など、必要な支援はこれからも積極的に行っていきます。

いろいろな交付金の制度もありますが、必要があれば町独自の支援も考えていきます。

問 松屋議員

新たな体験メニューの開発や充実を図るための方策は。

答 西町長

ガイドの組織化、星空観察、雨の日対策、野崎島の自然観察、農水産物加工場を活用した体験などのプログラムをみがき上げていきたいと考えています。

人材不足などの問題もありますが、体験メニューの推進はアイランドツーリズム協会がふさわしく、地域の人材を取りこみながら、これからも支援していきたいと考えています。

小値賀本島への人の流れを

問 松屋議員

町内の歴史、文化、景観等を観光資源としてどのように活用しているかと考えているか。

特に上五島から野崎島への日帰り観光客が多く、小値賀本島のメリックが少ないのでは。

答 西町長

文化的景観の解説板の設置や維持管理、古民家の修復のための補助をするなど、支援は実を結んでいきたいと思います。

小値賀町内外の観光事業者などがいろいろ準備を進めています。さらにより一層の官民連携を進めていきます。野崎島を訪れたら小値賀島へ。小値賀島を訪れたら野崎島へと人が流れる仕組みづくりを考えていきます。

若者交流センターの活用を

問 松屋議員

観光客が多く、民間宿泊施設で対応できない場合、若者交流センターを活用してはどうか。

答 西町長

若者交流センターの設置目的からすると、一般客の利用は難しいが、町民と何らかの交流があれば利用できるものと考えられます。



総合グラウンドの利用とからめた若者交流センターの活用も

実際に団体客の対応が町内では難しい状況もあり、民業圧迫しないようであれば、一般客でも利用できるよう、条例の改正等も含めて考えていきたいと思っています。

～質問を終えて～

官の役割、民の役割、官民両方の役割について、納得できる町長の答弁でした。人口減少と少子高齢化など厳しい環境ではありますが、官と民の役割をそれぞれが理解し、官民協働で小値賀の維持と発展のため、頑張っ取り組もうと思った次第です。



松屋治郎議員

一般質問

宮崎議員

野崎島は観光優先か環境保全か

西町長

観光に特化せず環境を守ることから

観光客か環境保全か

問 宮崎良保議員

世界遺産に登録された野崎島では、観光客の安全と安心のため、町道の整備やビクターセンターの建設などの整備はなされている。

一方で、野崎集落や野首・舟森集落の生活や文化の維持や保存をどうしていくかのビジョンが明確でないように思う。

野崎島の利活用は観光客を主とするのか、環境保全を主とするのかどちらを考えているのか。また、入島税の導入は考えていないのか。

答 西浩三町長

野崎島は自然あり、文化財ありで訪れる人の目的もさまざま。その自然環境や歴史を保全することは町の責務です。

環境保全と観光客のどちらが主か、ではありません。

環境を守ることによって野崎島の魅力が保たれ、その魅力に人が訪れ、それを大切にする気持ちや守っていくための活動へと循環することが大事です。そのためにも、まずは多くの町民が野崎島に接し、理解する機会をつくりたいと考えています。



宮崎良保議員



「入島税」という税金は難しいが、「協力金」については検討していきたいと考えています。



「野首港」の開放は

問 宮崎議員

野崎港は浮桟橋にほぼ1隻しか横づけできず、「はまゆづ」の運航に支障が出る恐れがある。

協議会を設置し、野崎港の自主的な利用調整や他地域の海上タクシー事業者との連携を図ることは考えられないか。

答 西町長

「はまゆづ」の運航も含め、入出港時の事故やトラブルがないよう、実務者レベルでの協議が必要なのは十分理解しており、現在、協議会を作るための作業をしています。



野首港を海からと陸からと

答 西町長

島の注意事項など、入島時のアナウンスは野崎港のビクターセンターで行っています。

ただ、「野首港」が利用できれば、小値賀本島に観光客が来る可能性は高くなると思います。

交通手段の検討も含め、早い時期に「野首港」を開放することも考えていきたいと思えます。

VRの導入は

問 宮崎議員

観光ガイドの不足が懸念されている。

南島原市の原城跡では、施設等の建設ができない状況でVR※①での臨場感ある案内方法を考えているようだ。

また、AR※②の利用も考えられる。

これらを導入することで、野崎島の観光の充実が図られるのではない

バーチャルリアリティ（仮想現実）：

透過型のディスプレイに、利用者の見ている対象物に関連する文字や画像などを重ね合わせて表示することで、現実には見えない部分を見えるようにしたり、関連情報を提供したりするシステムのこと。

※①VR

オーグメンテッドリアリティ（強調現実感）：コンピュータが、カメラやマイクなどで得たその場所の状況に関する情報を元に、現実世界から得られた画像や音声などを加工して利用者に提供するシステムのこと。

※②AR

答 西町長

長崎県ではVRやARの導入は、費用がかかりすぎることからほとんど進んでいません。

歩きスマホの危険性、特に野崎島は道路状況が厳しい中でのVRやARは、安全面での課題が多いと考えています。

観光ガイドの育成や人材の確保については、五島列島おもてなし協議会の事業を活用し、官民連携で拡充していくことが大切と考えています。

世界遺産登録は終点ではなく始まりと考えています。

観光に特化することなく、自然と文化遺産について現状の保存方法を検討しながら、未長く次世代に引き継いでいきたいと考えています。

～質問を終えて～

今回は夜間議会でしたが、一般質問の時間が遅れ、登壇したのはすでに午後9時過ぎ。質問は大幅に短縮せざるを得ませんでした。

もっと観光資源としての対応ではなく、野首及び野崎集落の神島神社の氏子として生き残りを図った潜伏キリシタン教徒の姿を保存し、次世代への継承について問うことができず、当面の課題である野崎港の利活用のみとなったのが残念でした。

補正予算

こども園の改修工事に 2500 万円



見ただけでもボロボロなのがわかります



天井がヤバイことに

問 雨漏りがひどいとのことだが、子どものためにも早く新しい建物を建てた方がよいのでは。

答 築25年を過ぎてはいるが、老朽化の調査の結果、比較的健全な状況と確認された。

問 もともと長期利用するものとして鉄筋コンクリートで造っている。できればあと20年、少なくともあと10年は改修しながら使っていきたい。

問 子どもの安全確保のためにも、先手先手で対策をとるべきではないか。

答 先日の台風の際、漏れた雨が天井にたまり、天井の一部が落下したため、危険な箇所は大きくはずした。まずは雨漏り対策に重点をおきたい。

問 台風の被害であれば、保険が使えるのでは。

答 以前から雨漏りしており、保険の対象外だ。

問 雨漏り対策の他に何かするの。

答 来年度以降、プレイルームの空調機器や床内壁の補修なども行いたい。

問 工事中の園児の安全は確保できるのか。

答 外回り全面的に足場を組んだりするので、安全確保には十分注意する。外遊びのことも考慮し、ある程度涼しくなってきたからの工事を考えている。

診療所建設用地造成工事に 1 億円

- ・ボーリング調査の結果、計画地盤高を 10 m 確保するとして、6 ~ 11 m 下で岩盤を確認できた。
- ・砂などの層はなく、液状化現象となる可能性はない。
- ・隣接する現診療所の駐車場も利用できるため、新たに整備する駐車場の面積が縮減できる。
- ・用地面積に余裕があり、今後必要となる公共施設の建設用地として活用できる。
- ・特別養護老人ホームに近い。
- ・現診療所が近く、移転作業が効率的に行える。

以上のような理由から、現診療所の駐車場前の埋め立て地に新しい診療所を建てることが決まり、造成工事費用が計上されました。

平成 30 年度一般会計補正予算 (第 2 号) 補正予算

主な内容

(民生費)

地域福祉センター改修工事に **6650 万円** を新たに計上

空調関係の費用が主。非常用照明を LED 電球に交換したり、2 階に転落防止柵を設置する費用。

(民生費)

こども園の改修工事に **2500 万円** を新たに計上

長年の懸案だった雨漏り対策の大きかりな工事費用。主なやりとりは左のページ上段に。

(衛生費)

診療所建設用地造成工事に **1 億円** を新たに計上

新診療所予定地のボーリング調査の結果を受けて建設場所を確定。平成 32 年度に開設予定。詳しい内容は左のページ下段に。

(教育費)

大島分校増築実施設計業務に **300 万円** を新たに計上

学級数が来年度から増えることが見込まれるため、増築にかかる実施設計の費用。増築工事は来年度の予定。

既定予算額 **30 億 2000 万円**

⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 今回補正して **32 億 3910 万円** に

(2 億 1910 万円の増額)

原案のとおり可決 (全員一致)

平成 30 年度特別会計補正予算

介護保険事業 (第 1 号) **13 万 2 千円** 増額 **4 億 4613 万円** に



定例 7 月会議の議案および議決結果は役場ホームページで確認できます。

水産物加工場はどんな感じ？

九州商船本社を議員6名が訪問 社長以下主だった役職員が対応

貨物船について

小値賀港へのコンテナ輸送の可能性については、燃料代や船員の時間外手当などの新たな負担が生じ、採算が取れないことから難しいとのことでした。

また、フェリーのドック期間中だけでも、青果物を高速船の後部席に積み込めないかお願いしましたが、佐世保港のさん橋通路が急勾配のためにフォークリフトが使用できず、難しいとのことでした。

高速船の後部席は比較的揺れの影響が少ないこともあり、運行中横になりたいと言う客も多いとのこと。

さん橋通路が通れるようになったとしても、作業の安全性や旅客の利便性の面から、難しいと考



貨物船「マリンライナー」

一方、現在は新長崎漁港の近くの三重港から来ていますが、以前のように佐世保近郊で、利用できる港を探しているとのことでした。

議会としても改めて要請するとともに、安全性と利便性という相反する問題の解消に向け、今後とも取り組んでいこうと思

新高速船が就航

新造の高速船「シーエンジェル」(約120トン、旅客定員20名、速力30ノット)が7月31日から就航します。

小値賀に寄港するのは佐世保発12時45分。有川経由で小値賀着14時50分の1日1便ですが、今までの空白の時間帯でもあり、少し便利になります。

スピードや旅客定員は変わりませんが、長さが少し長くなった分、乗り心地が良くなるかもしれません。

後部のジュータン席も広くなり、いす席もリクライニングシートになりました。

冷水器も備え付けられています。



五島をイメージした内装?のシーエンジェル



ダイヤも変更

なお、7月31日から高速船「シークイーン」の母港が有川から宇久へと替わり、フェリー「なるしお」の母港は宇久から小値賀へと替わりま

「なるしお」に替わる新造フェリーは、平成の時代が終わる来年4月末ごろを予定しています。「かなり気合を入れて造っている」とのことです。

なお、船名は「いのり」に決まりました。

昨年度、水産加工場の整備事業費として約5000万円が計上され、この春から稼働しています。

水産物の加工や特産品の開発を行い、販路を開拓して6次産業化を目指すもので、漁業者の所得の向上と雇用の場を生み出すことを目的にしています。

議会でも特に注視しているこの水産加工場の、今の様子取材してきました。



一般財団法人小値賀町担い手公社が管理しています

衛生管理を徹底

ナイロン製のキャップとマスクをし、長靴に履き替え、手を入念に洗い、消毒してから入ります。衛生管理を徹底しているようです。

室内のエアコンの設定温度は18℃。外のうだるような暑さとは無縁でした。



急速凍結機

原材料搬入室から二次加工室へ。ここから、二次加工するルートと、一次加工のまま梱包室へと向かうルートに分かれます。

梱包室では、真空包装したものをマイナス60℃の急速凍結機で一気に冷凍します。

魚の種類などにより、マイナス30℃やマイナス60℃の冷凍ストッカーで保存します。

異物混入を防ぐための金属探知機もあります。

販路の拡大も必要

6次産業化には、販路の拡大も必要です。東京や大阪にも足を延ばしているそうです。

町内では、学校給食用にヒラスやアジの切り身を出したり、ストアーで刺身を販売したりしています。

他にもバトやキッコリの漬け、ヒラスやブリの切り身、フカヤトへの湯がきものなど、未利用・低利用の水産物を加工し、ストックしているそうです。



機械が並ぶ二次加工室

3年で軌道に

現在、担い手公社職員のほか、パート5名と委託職員1名体制で、あれこれと苦労しながら試行錯誤の毎日です。

手間をかければ売れるが利益が出にくい中で、3年くらいで採算ラインにのせられるようがんばっているようです。

購入した機械を有効利用するため、町内の加工業者さんたちとも連携しながら進めていくことも考えているそうです。



ヒラスの漬けの試作品

(魚の名の表記は、小値賀での通称にしています。)

議員のなり手不足を考える 1回目

議員のお仕事って？

今、全国の町村議会でも、議員のなり手が少ないと大きな問題になっていきます。若者や女性だけでなく、そもそも議員になろうと考える人が少ないのが現実です。どうして議員になろうとする人が少ないのか。そんなに議員の仕事に魅力がないのか。この問題をシリーズで考えていきます。



議員の仕事とは、お堅く言えば、「具体的な政策の最終決定」と「行政運営の批判と監視」を完全に達成できるよう、議会の一員として懸命に努力すること、とされています。なんだか、わかるようでよくわかりませんね。では、実際に議員は何をしているのでしょうか。

定例会と一般質問

まず、3月・7月・11月の定例会議のほか、年に数回の臨時会があり、出席しなくてはなりません。

もちろんただ出席すればいいわけではなく、事前に渡される議案や補正予算などに目を通し、しっかりとチェックすることが求められます。特に来年度の予算を審議する3月の会議では、会議の1週間くらい前に渡される予算書（一般会計で約120ページ

もあります）の中身をチェックしなければならず、けっこう大変な作業です。



やりがいのある仕事です

また、定例会議では、町の行政や財政の広い範囲の中で、疑問点をただしたり、報告、説明を求める「一般質問」をします。

自分の考えを正々堂々と主張しながら、30分間、町長や教育長に質問することができるとは、緊張はしますが、まさに議員ならではの仕事です。

町外へも

ほかにもいろいろな会議に出席します。

議案を調査・審査したり、時には執行部からの説明を受ける全員協議会。

議員同士でも活発な議論や意見交換がなされます。

その道の専門家のレクチャーを受けたり、勉強会も開かれます。議会運営委員会や常任委員会、また、町内各地

に出向く出前議会や語らう会などもあり、意外と忙しいものです。町内だけでなく、町外の会議に出席したり、先進地区の調査や研究、視察研修も行います。視野を広げたり専門知識を学ぶため、研修会にも積極的に参加しています。

イベントや各種行事に来賓として出席することも少なくありません。



活発な質疑や熱心な議論がかわされます

町民の声を聴く

また、議会だよりの発行も大事な仕事のひとつです。

以上のようにいろいろな仕事がありますが、実は議員の仕事の中で一番大事なことがあります。

それは、日ごろから町民の声を聴くこと。

議員は町民の代表です。町民が何を考え、どこに問題があるかを意識しなくてはなりません。

役場職員とも

役場の職員とは適度に緊張感を持って接しますが、やはり良い関係を保つことも仕事のひとつです。

職員によつては、表面的には議員に「へこへこ」していても、腹の中では「どうせ議員は素人だから」と考えていることがあるかもしれません。信頼関係を築く努力を怠りたくはありません。



町民の代表として座ります



さて、いろいろ書きましたが、議員個人によって仕事のスタンスや考え方の違いがあるのも事実です。いろいろな考えを持つ人がいて、いろいろな違いがあつて、それが許される。世代も異なる。だからこそ議員は町民の代表と言えるのかもれません。

トピックス

町村議会の模範！ということで

全国町村議会議長会より特別表彰を受賞



平成29年度の町村議会表彰審査会が開催され、審査の結果、小値賀町議会が福岡県大刀洗町議会、徳島県那賀町議会とともに、特別表彰を受賞しました。

全国の26団体が町村議会として他の模範となるような活動を行っていることを認められて表彰され、その中でも特に素晴らしい実績があると認められた3議会が特別表彰となったものです。

小値賀町議会はこれからも「能動的に行動する議会」、「町民と共に歩む議会」、「政策を提言する議会」を基本理念に、住民に開かれた議会として活動を続けていきます。





世界遺産登録のパブリックビューイング会場にて

(表紙の写真)

町民有志の合唱団です。
世界文化遺産に登録されることが決
定し、「おめでとう」の合唱がありま
した。
ここまでの長い道のり、関係者の皆
さんの苦勞が報われた瞬間です。
とは言うものの、遺産を将来に向
かって守っていくために、しなければ
ならないことはたくさんあります。
まずは身の丈に合った小値賀らしい
おもてなしで、観光客を迎えようでは
ありませんか。

次回の定例会議は 11 月の予定です。

一般質問は定例 11 月会議までありませんが、ふだんの会議や委員会も傍聴できます。

定例会の一般質問の後、傍聴された方のご意見を直接伺う機会を設けていますが、今回は残念ながら、何もご意見が出ませんでした。

編集後記

今年の夏は暑い。
最高に熱い。
去る 6 月 30 日、「野
崎島の集落跡」が「長
崎と天草地方の潜伏
キリシタン関連遺産」
として世界文化遺産
に決定した。
人の心が熱い。
その後も暑い。非常に熱
い。今度は身体が熱い。
猛暑が続き熱中症が続出
だ。健康管理に要注意。
小値賀町は「西海国立公
園」、「重要文化的景観」、「世
界遺産」。なんて素晴らしい
町(島)だろう。
私たちは日本が、世界が
認めた素晴らしい町(島)
に住んでいる。
ぜいたくな環境だ。
ありがたい。
これからも皆でこの素晴
らしい環境を守り、多くの
人に熱い心で、この素晴ら
しさを味わってもらいま
しょう。

編集委員 松屋治郎

今号の議会だよりの発行部数は 1500 部。
1 冊当たりの印刷製本費は約 84 円です。



全国町村議会議長会
町村議会クイック Navi
「小値賀町」



小値賀町議会 Facebook



(広報常任委員会)

今田光弘委員長 宮崎良保副委員長
松屋治郎委員 浦英明委員
横山弘藏委員 立石隆教議長

編集 小値賀町議会 広報常任委員会

発行責任者 小値賀町議会議長

電話 0959-56-3111